

当面の病床機能転換等の予定について (有田保健医療圏)

和歌山県湯浅保健所

当面の病床機能転換等の一覧（有田保健医療圏）

No.	医療機関名	転換等の内容		転換等の時期
1	医療法人社団マザー・キー ファミール産院ありだ	新設	急性期病床（産科）12床を新設	令和6年4月 （予定）

病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名 医療法人社団マザー・キー ファミール産院ありだ

現在の病床機能【概要】 <令和5年2月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
計				
(備考)				



今後の病床機能				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料	12	
回復期				
計	1		12	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
産科病床を12床新設				

転換転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方

有田市からのオファーと有田診療圏4市町（有田市、有田郡湯浅町、有田郡広川町、有田郡有田川町）のご要請、ご協力を受けまして開院を目指すことになりました。日本では少子高齢化が問題になっておりこの地域におきましても例外なくその影響を強く感じておりますが、少子化の影響を受ける「お産」を取り巻く環境は少子化対策を推進するには程遠く、「赤ちゃんを産む」場所と産科に従事する医師が非常に減少してしまっている状況です。この度、今まで培った医療の経験を基に地域の皆様に快適な環境下で安全なお産ができる産婦人科診療所の設立を計画いたしました。現在有田市民病院に勤務されている平野開士医師を院長としてお迎えし、地域医療に貢献したいと考えております。分娩を取り扱うため、病床の確保は必要不可欠なものであります。当該診療所設置にあたり、12ヶ月の診療計画について以下の通り考えております。

【診療計画】

当該診療所の診療圏は上記有田診療圏4市町と設定いたしました。この地区の2021年における年間出産件数は約379件であり、当該診療所の年間分娩数220件/年(全体の約58.0%)を見込んでおります。

これは有田診療圏4市町と同様の出生数推移をしている館山市域において産婦人科を運営している当グループの施設「ファミール産院たてやま」にて、館山市域の年間出生数66%にあたる分娩を取り扱っている事実に基づき算出した分娩数見込みです（別紙『当該診療所を12床とする検討』、付録『出生数一覧』、『出生数、分娩数の推移』参照）。

【分娩に必要な病床数について】

上記の近隣施設の分娩取扱数を考え、当該診療所では約220件の分娩を見込んでおります。必要病床数は12床。内訳は陣痛・回復病床2床、アウスや手術前後の医学的管理が必要な患者が一時的に過ごす病床2床、産褥入院用病床8床（正常分娩後の病床5、帝王切開後の病床2床）、分娩に関わる疾病用病床1床（一部分娩後の入院も）と考えております。

①陣痛・回復病床

当院では正常分娩者全員が陣痛と産後の処置観察を陣痛・回復病床で行います。陣痛分娩後の経過観察の間の数時間から数日を病床で過ごし、その後一般病床に移動する事になります。

②医学的管理が必要な患者用の病床

帝王切開・流産手術などの処置前と処置後の観察・回復および人工妊娠中絶前後の観察・回復に利用します。医学的管理用の設備を有し、患者の安全が確認されたのち是一般病床に移動します。

③一般病床

陣痛・回復室で分娩後あるいは手術後②病床にて経過を観察後、安全が確認されたのちに一般病床に移動いたします。当院では母体と赤ちゃんの安全と快適性を考えた個室を4室、他4床部屋を1室の8床にて分娩後の産褥入院と分娩関連の疾病の入院に対応いたします。

④入院日数

正常分娩後の入院は陣痛・回復室から移動後5泊6日の入院を予定しております。また、帝王切開は全分娩の20%を予想し、オペ室から移動後8泊9日入院を予定します。安全を考え余裕のある病床運営を希望します。

⑤病床稼働率

分娩は予定通りとはいかず、月の分娩の15%が1日に集中することもあり、計画的な入院のコントロールは難しく、安全の為に病床稼働率は60%程度を上限に見込みます。産科に関連する流産や切迫早産他症例に対応するための病床は、分娩数の20%強の患者に発生することが予想され、入院日数も人それぞれです。平均入院日数を約5日と仮定し余裕をもって60%の稼働率で考えております。

⑥算出方法（合計12床）

陣痛・回復病床（正常分娩者が全員利用）：2床
医学的管理病床（手術前後の医学的管理病床）：2床
正常分娩後：正常分娩176×入院6日÷365日÷60%≒4.822 ⇒病床5床
帝王切開後：帝王切開44×入院9日÷365日÷60%≒1.808 ⇒病床2床
その他病床：分娩総数220×20%×入院5日÷365日÷60%≒1.005 ⇒病床1床

この地域は里帰り出産も多く、また有田市が実施する種々の出生数向上に関する支援策（別紙『有田市の運営補助金以外の支援策』）や岸田首相が施政方針演説で述べられた「次元の異なる少子化対策」の成果により出生数が向上する今後に対応すべく、12床の有床診療所の新設を希望しております。

当該診療所を12床とする検討

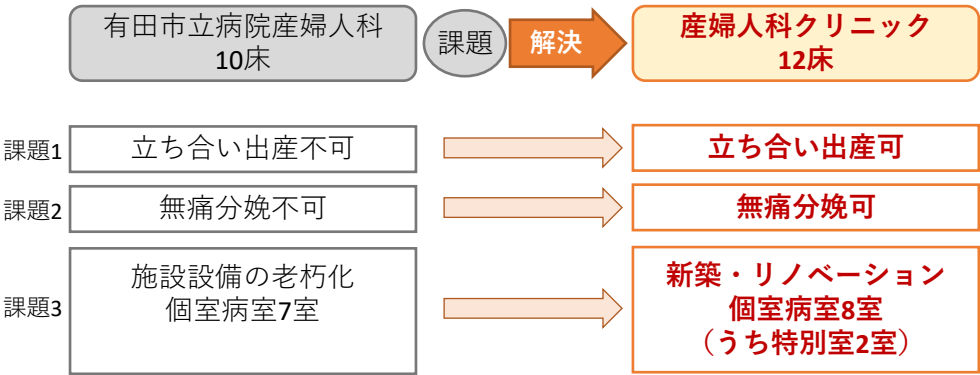
新たに整備する産婦人科診療所は分娩するに際し入院ベッド数は12床といたします。
12床必要であることの検討を行いましたので報告します。

1. 市立病院での産婦人科での課題を解決します。

有田市立病院産婦人科では10床で運営しており、令和4年4月に再開した分娩数実績は、表の通りで低調となっています。新診療所で分娩数を増価させるための課題を抽出し、それら課題を解決していますので12床必要です。

有田市立病院分娩数実績

令和4年度分娩実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
分娩実績数	2	3	7	3	2	6	8	10	7



課題解決による分娩増加のイメージ

課題1：立ち合い出産が不可となっている

初産婦は夫の立ち会いを希望されている方が多く、途中まで当院で出産するとしても、立ち会い出産を希望され病院を変えた方が、今年度で6人いました。新クリニックでは立ち会い出産を可とし、分娩数増加を図ります。

課題2：無痛分娩が不可となっている

分娩希望だった方が痛みが怖いので無痛分娩をしている病院に転院された事例があります。この理由による転院は経産婦に多い傾向があります。新クリニックでは無痛分娩を可として、分娩数増加を図ります。

課題3：綺麗で新しい産院、流行っている産院で産みたいニーズが増している

新クリニックは新築とフルリノベーションにて整備します。綺麗な産婦人科クリニックで気分よく安心してお産いただくことで分娩数増加を図ります。

また、個室数を増加させてニーズに応えられる産婦人科クリニックとします。なお個室には付き添い家族からも評価が高い特別室を含みます。

2. ファミール産院グループのノウハウで運営するので12床必要です

ファミール産院グループは「しあわせなお産をしよう LET’S HAVE A HAPPY BIRTH」の理念のもとファミール産院たてやまを皮切りに千葉県内6院の運営を行っております。この経営ノウハウを有田市での新クリニックでも活用し分娩していきます。有田郡市とファミール産院たてやまがある館山市域の出生数と産院分娩数の実績値を示します（付録1：表 出生数と分娩数の実績値と近似曲線）。

ファミール産院たてやまの分娩数は館山市域の出生数近似曲線の基準に考えますと約66%となっています。約66%がファミール産院グループのノウハウであると考え、これを有田郡市の出生数に当てはめると、分娩数は年間で約250～200になると考えられます。当該診療所の年間分娩数220件/年(全体の約58.0%)を見込んでおります。月間分娩数では、18分娩となります。

$220 \text{ (分娩/年)} \div 12 \text{ (月)} \div 18 \text{ (分娩/月)}$

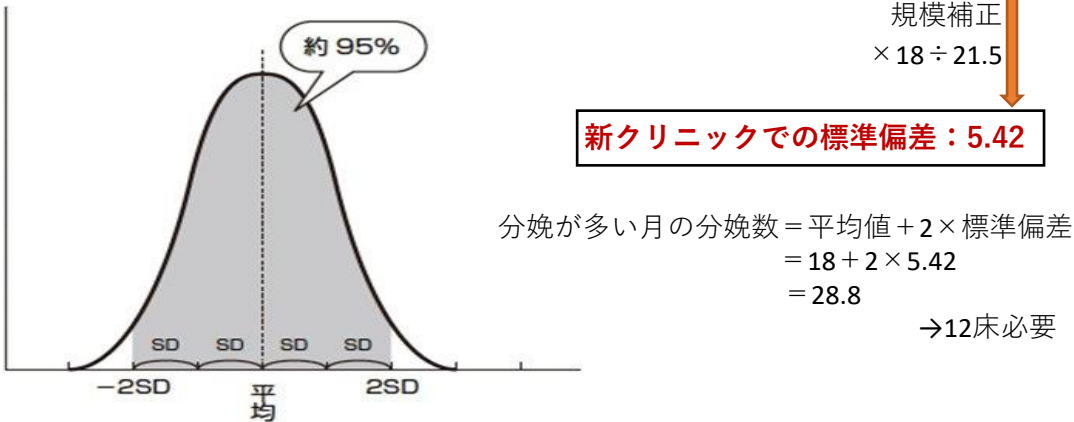
次にばらつきを検討します。2021年1月～2022年12月のファミール産院たてやまの月間分娩数実績は下表のとおりです。正規分布すると仮定しますと、ばらつきを示す標準偏差は6.48となり、これを新クリニックにおいて適用するために規模補正[$\times 18 \div 21.5$]しますと新クリニックでの標準偏差は5.42。95%確率となる分娩数は、

$\text{分娩が多い月の分娩数} = \text{平均値} + 2 \times \text{標準偏差} = 18 + 2 \times 4.83 = 28.8$

28.8分娩に対応できるベッド数は12床です。

表 ファミール産院たてやま 月間分娩数実績

2021年												2022年												平均	標準偏差
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
17	22	36	27	20	26	22	18	20	16	27	21	22	7	19	19	26	12	20	29	32	25	20	12	21.5	6.48



なお、参考として（付録2）にファミール産院グループマザー・キーと理事長杉本雅樹、院長平野開士を取り上げた記事一覧と記事の一部を添付します。

3. 有田市少子化対策・子育て支援の施策

有田市では、「子育ての喜びが人と人を結びつけ 子育て文化を創造するまちありだ」の基本理念のもと、その実現に向けて子育て家庭全体の支援や地域の少子化対策事業があり、出生数の増加する施策ございます。「子どもを育むすばらしさを、有田市全体でどう応援していくか」ということを徹底的に考えて、パッケージ「マリー・ユー」が令和3年より始まっています。その効果があってか令和4年は出生数が増加しました。参考として（付録3）に有田市の少子化対策・子育て支援策一覧と各施策のページハードコピーを添付します。

表 有田市の令和以降の出生数実績

西暦年度	令和年度	出生数	備考
2019	1	137	
2020	2	127	
2021	3	127	「マリー・ユー」スタート
2022	4	147	(4～12月段階の速報値)

分娩数一覧

西暦	和暦	有田市立病院	ファミリー たてやま
2001	13	---	---
2002	14	---	---
2003	15	---	---
2004	16	---	---
2005	17	---	---
2006	18	---	---
2007	19	---	---
2008	20	---	---
2009	21	---	---
2010	22	---	---
2011	23	---	---
2012	24	---	---
2013	25	---	---
2014	26	---	333
2015	27	---	279
2016	28	---	319
2017	29	32	278
2018	30	60	275
2019	1	29	198
2020	2	0	260
2021	3	0	272
2022	4	54	243

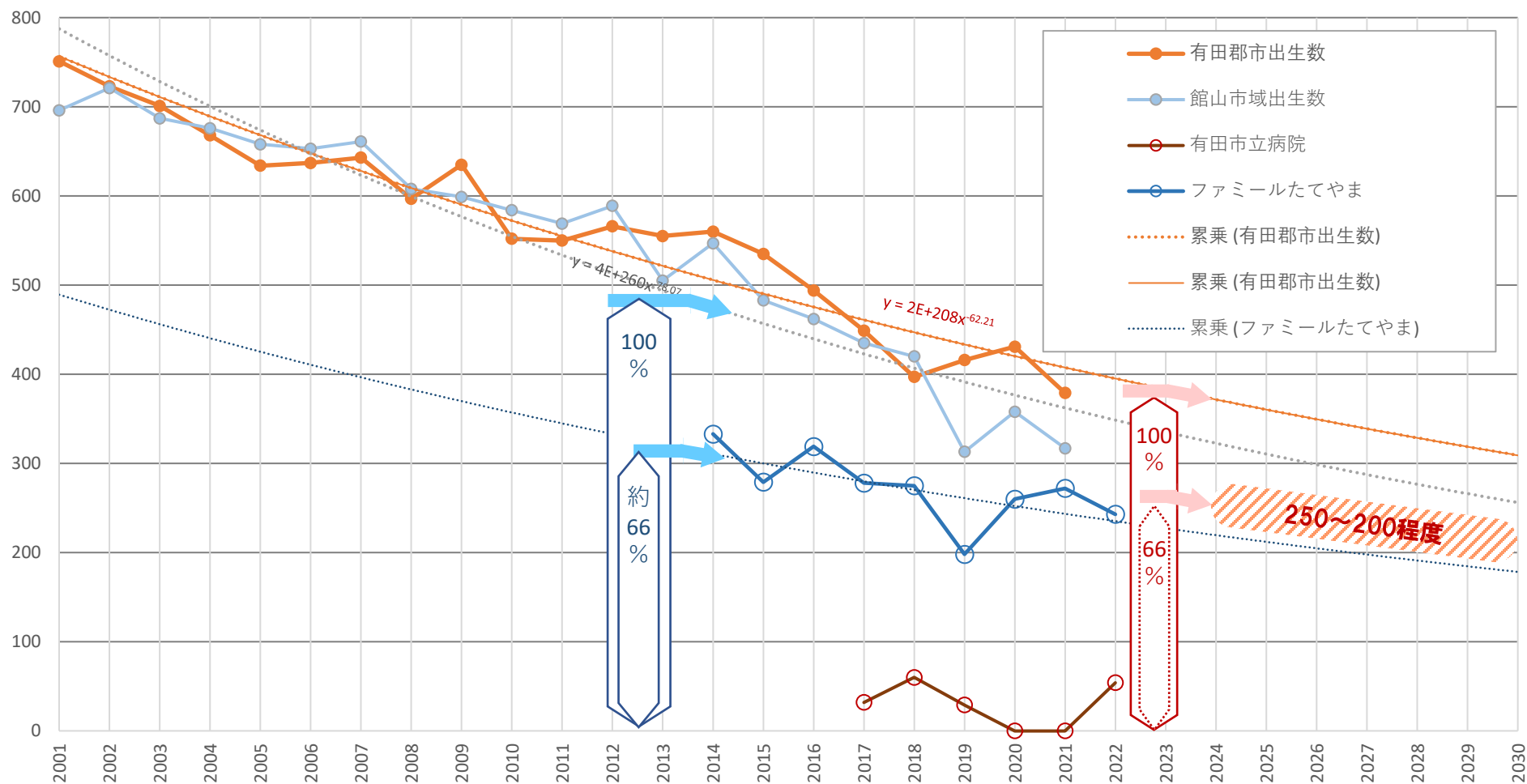
出生数一覧

有田郡市			人口の推移 HPより	GD freak H Pより	人口の推移 HPより		
		市HPより		町HPより	町HPより		
西暦	和暦	有田市	湯浅町	広川町	有田川 町	合計	備考
2001	13	323	121	56	251	751	
2002	14	298	125	59	241	723	
2003	15	281	126	63	231	701	
2004	16	271	114	57	226	668	
2005	17	257	114	60	203	634	
2006	18	250	124	49	214	637	
2007	19	238	112	73	220	643	
2008	20	233	97	67	200	597	
2009	21	238	108	60	229	635	
2010	22	222	94	61	175	552	
2011	23	199	100	50	201	550	
2012	24	212	106	55	193	566	
2013	25	229	92	49	185	555	
2014	26	195	91	50	224	560	
2015	27	203	92	40	200	535	
2016	28	160	73	53	208	494	有田市提供資料より
2017	29	158	74	49	168	449	//
2018	30	141	55	29	172	397	//
2019	1	137	57	29	193	416	//
2020	2	127	59	31	214	431	//
2021	3	127	55	26	171	379	//
2022	4						

(付録 1)

館山市域		GD freak H Pより	GD freak H Pより	GD freak H Pより	
			町HPより		
西暦	和暦	館山市	南房総 市	鋸南町	合計
2001	13	415	230	51	696
2002	14	402	269	50	721
2003	15	378	259	50	687
2004	16	399	229	48	676
2005	17	384	239	35	658
2006	18	385	220	48	653
2007	19	389	230	42	661
2008	20	350	215	43	608
2009	21	359	202	38	599
2010	22	362	189	33	584
2011	23	348	189	32	569
2012	24	349	203	37	589
2013	25	293	185	27	505
2014	26	310	208	29	547
2015	27	297	159	27	483
2016	28	282	157	23	462
2017	29	273	131	31	435
2018	30	272	119	29	420
2019	1	198	95	20	313
2020	2	242	101	15	358
2021	3	210	92	15	317
2022	4				

出生数、分娩数の推移（人）



有田市の運営補助金以外の支援策

名称	概要	補助対象	上限金
結婚新生活支援補助金	1. 住宅取得・住宅賃借の経費 2. 引越し経費	10/10	30万円
結婚祝贈呈事業	新婚夫婦の親族等へ結婚記念品を贈呈	1組	1万円
出産祝金の支給	新生児	第1子 第2子 第3子	10万円 30万円 50万円
有田市スマイルチケット	妊娠中、産後のママのために笑顔で子育てができる応援チケット。	妊婦 出産後	2万円 3万円
病児保育室『きらりん』	入院を必要としない病状で、家庭での保育が困難なお子さまを一時的に預かる	生後6月～小6	無料
子ども医療費助成	18歳までの子どもの医療費の一部を市が助成。保険診療の自己負担金を助成。	自己負担金	無料
小・中学校入学祝い補助金	小学校・中学校に入学の家庭に入学等祝い補助金を支給	入学児童 生徒	10万円
奨学金返還支援助成	奨学金の返還者に対し、返還額の一部を補助。3年継続して市内事業所で就業等。	10/10	20万円
移住推進空き家・空き地活用補助金	空き家 購入	1/2	50万円 ※100万円
	空き家 改修	2/3	80万円 ※100万円
	空き地 新築（市内業者施工の場合）	1/20	70万円※120万円
	空き地 新築（市外業者施工の場合）	1/30	50万円※100万円
空き家家財道具等処分支援事業費補助金	空き家の家財道具等を処分費用の補助	所有者 賃借者	10万円
空き家・空き地仲介手数料補助金	購入又は賃貸借契約を締結し、宅地建物取引業者の仲介手数料を補助	1/2	5万円
ファミリー・サポート・センター事業	サポート会員と、子育ての応援を受けたい方の相互援助活動。信頼できる地域の方に子どもを見守ってもらえるよう橋渡。		スマイルチケット利用可
スマイルベビーギフト事業	ベビー・子ども服や雑貨をプレゼント	生後2ヵ月頃	子ども服雑貨BOX
和歌山県在宅育児支援事業給付金	子どもが2人以上世帯で家庭での養育の方に、給付金を支給	生後2か月～満1歳	15万円
紀州っ子いっぱいサポート	第二子以降の幼稚園・認定子ども園・保育所等の保育料・利用料を助成	保育料等 施設給食	全額 4,500円/月
一般不妊治療費助成 特定不妊治療費助成	一般不妊治療の費用の一部を助成 体外受精等治療費の一部を助成	継続2年間 通算6回	6万円 5万円
ひとり親家庭に関する福祉制度	ひとり親家庭に支給	第1子 第2子	43,070円/月 10,170円/月

※40歳未満の世帯主又は義務教育終了前の子を扶養している世帯